

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こども家庭支援論	担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援の意義、役割、支援体制・内容を学ぶ。 子ども家庭支援における保育者の基本姿勢や相談援助の方法を学ぶ。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保育士が行う子育て家庭に対する支援の意義・目的を述べることができる。 子育て家庭に対する支援の体制を述べるができる。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援内容、子ども家庭支援の現状と課題を述べるができる。 				
テキスト・ 参考図書等	【参考図書】 新基本保育シリーズ⑤子ども家庭支援論 松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 中央法規				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験を中心に、提出物やワークの取り組み状況等、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	講義はレジュメや配布資料に沿って行う。その他グループで議論したり、感想をリアクションペーパーで提出することもあります。日頃から子ども家庭福祉に関する報道をチェックしておくよう心がけてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性	子育て支援の制度の概要		
	2	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	社会資源の活用と現状		
	3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	保育の専門性と相談援助の関連性		
	4	子どもの育ちの共有	子どもの育ちと保育所保育指針、幼稚園教育要領		
	5	保育士に求められる基本的態度	保護者との信頼関係、支援に必要な保育士に求められる基本的態度		
	6	家庭の状況に応じた支援	家庭の状況に応じた支援と保育者の役割		
	7	地域資源、関係機関との連携・協力	地域の多様な資源の活用と自治体・関連機関との連携・協力		
	8	子ども家庭支援の内容と対象	子ども家庭支援の具体的な対象、内容とアプローチ方法、支援の形態		
	9	要保護児童とその家庭に対する支援	要保護児童の現状と家庭への支援		
	10	子ども家庭支援の目的と機能	児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領とこども家庭支援		
	11	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子ども家庭福祉の施策体系、子ども・子育て支援新制度の枠組み、実施体制		
	12	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	保護者および地域が有する力の向上と保育士に求められる視点		
	13	保育所等を利用する子ども家庭への支援	保育所等の相談支援機能と保育ソーシャルワーク		
	14	地域の子育て家庭への支援	地域で子育てをしている家庭への支援		
	15	子育て支援に関する課題と展望 まとめ	多様化する子育てニーズと支援		

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育・教職者論	担当教員 (実務経験)	長谷川 香 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	保育者とは何か、大切にしなければならないこと、その役割について学ぶ。				
到達目標	専門職としての保育者の役割について説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	授業内でプリント配布				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	・レポート、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	50%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	板書・プリント資料などを使用します。様々な保育の現場について、ゲストスピーカーからお話を聞きながら、保育者としての在り方について考えてほしいと思います。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	学習の進め方 保育士の制度的位置付け		
	2	保育者の専門性	保育者に求められる側面:児童福祉施設①(保育所)		
	3	保育者の専門性	保育者に求められる側面:児童福祉施設②(児童入所施設)		
	4	保育者の専門性	保育者に求められる側面:児童福祉施設③(児童厚生施設)		
	5	保育者の専門性	保育者に求められる側面:幼稚園		
	6	保育者の専門性	保育者に求められる側面:認定こども園		
	7	保育者の専門性	子育て支援の実際、今後の課題		
	8	保育者の専門性	支援が必要な子どもの理解、児童デイサービスの現状		
	9	保育者の専門性	支援が必要な子ども、家庭との関わり		
	10	保育者の専門性	保育者と専門機関との連携の必要性、児童相談所一時保護保育の実際		
	11	保育者の役割と倫理	保育者の役割、倫理、保育という職業		
	12	保育者の資質向上とキャリア形成	保育現場での協働、保育の場における学び		
	13	保育者の資質向上とキャリア形成	支援者としての役割:果たすべき役割と求められる資質		
	14	保育者の資質向上とキャリア形成	支援者としての役割:望ましい保育者像		
15	まとめ	まとめ 振り返り			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもの理解と援助	担当教員 (実務経験)	坪田 清美 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として認定こども園に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	・子どもを理解する視点および、保育現場における援助の実際について学ぶ。 ・子ども理解が保育にどのようにかかわるのかを学ぶ。				
到達目標	具体的援助について、事例を通して学びながら、保育実践において応用することができる。				
テキスト・ 参考図書等	【参考図書】 子どもの理解と援助/ 清水益治・森俊之編著/ 中央法規 保育所保育指針解説 平成30年3月/ 厚生労働省編/ フレーベル館 保育の心理学/ 長谷部比呂美・日比曉美・山岸道子・吉村真理子/ ななみ書房 (1年次「保育の心理学」使用テキスト)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	板書、テキスト及びプリント、必要時に視聴覚教材を使用します。ディスカッションには、積極的に参加してください。子どもを理解するためには、心の発達など心理学的基礎知識は必要不可欠です。それらが保育実践のなかでどのようにいかされていくのか考えながら学んでほしいと思います。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方 領域「人間関係」の理解		
	2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(1)	保育における子どもの理解の意義		
	3	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(2)	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開		
	4	子どもを理解する視点(1)	人的環境としての保育者と子どもの発達		
	5	子どもを理解する視点(2)	子どもの生活や遊びと人間関係		
	6	子どもを理解する視点(3)	子ども相互の関わりと関係づくり、集団における経験と育ち		
	7	子どもを理解する視点(4)	葛藤やつまずき		
	8	子どもを理解する方法(1)	観察、記録、省察、評価		
	9	子どもを理解する方法(2)	評価の実際		
	10	子どもを理解する方法(3)	職員間・保護者との情報共有		
	11	子どもの理解に基づく発達援助(1)	発達の連続性と就学への支援		
	12	子どもの理解に基づく発達援助(2)	発達の課題に応じた援助と関わり		
	13	子どもの理解に基づく発達援助(3)	特別な配慮を要する子どもの理解と援助①		
	14	子どもの理解に基づく発達援助(4)	特別な配慮を要する子どもの理解と援助②		
15	まとめ	まとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもの食と栄養		担当教員 (実務経験)	武藤 幸子 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	23回	時間数 45時間
授業目的	小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎であること、及び栄養の基本的知識や食生活全般について学ぶ。				
到達目標	栄養の基礎的知識を身に付け、保育における食育の意義・目的、基本的考え方を理解し、日常の保育の中で実践できる。				
テキスト・ 参考図書等	「子どもの食と栄養」 堤ちはる 土井正子編著 萌文書林 「新食品成分表FOODS」 新食品成分表編集委員会 東京法令出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験・提出物・演習時の参加状況を総合して評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	子どもの健康と食生活の意義	食生活の現状と課題		
	2	〃	子どもの心身の健康		
	3	栄養に関する基本的知識	栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識		
	4	〃	食事摂取基準と献立作成・調理の基本、食事バランスガイド		
	5	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活		
	6	〃	幼児期の心身の発達と食生活		
	7	〃	学童期・思春期・妊娠期の心身の発達と食生活		
	8	〃	生涯発達と食生活、成人期、高齢期		
	9	食育の基本と内容	保育における食育の意義、食育の内容と計画及び評価		
	10	〃	食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携、保護者への支援		
	11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭における食事と栄養		
	12	〃	児童福祉施設における食事と栄養		
	13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病および体調不良、障がいのある子どもへの対応		
	14	〃	食物アレルギーのある子どもへの対応		
15	調理室の使い方	調理室の使用方法(調理室にて)			

履修主題・履修内容	16	基礎調理	離乳期(大人の食事からのとり分け)
	17	基礎調理	離乳期(大人の食事からのとり分け)
	18	基礎調理	幼児期 (園の給食)
	19	基礎調理	幼児期 (園の給食)
	20	基礎調理	幼児期(クッキング保育)
	21	基礎調理	幼児期(クッキング保育)
	22	基礎調理	幼児期(アレルギー食)
	23	基礎調理	幼児期(アレルギー食)、まとめ

2022年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こども家庭支援の心理学		担当教員 (実務経験)	芳賀 雅子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭として幼稚園に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	子どもの育ちを踏まえた家庭支援の意義について理解を深める。				
到達目標	発達の観点から、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を持つことができる。				
テキスト・ 参考図書等	保育の心理学/ 長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子・吉村真理子/ ななみ書房 (1年次「保育の心理学」使用テキスト) 【参考図書】 子ども家庭支援の心理学/ 松本園子・永田陽子・長谷部比呂美・日比暁美・堀口美智子著/ ななみ書房				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	% 定期試験、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	10%			
	小テスト				
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	板書、プリント、必要時に視聴覚教材を使用します。ディスカッションには、積極的に参加してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方		
	2	生涯発達(1)	乳幼児期から学童期にかけての発達		
	3	生涯発達(2)	青年期から成人期・老年期にかけての発達		
	4	子どもの精神保健とその課題(1)	子どもの生活・生育環境とその影響		
	5	子どもの精神保健とその課題(2)	子どもの心の健康に関わる問題		
	6	家族・家庭の理解(1)	家族・家庭の意義と機能		
	7	家族・家庭の理解(2)	親子関係・家族関係の理解		
	8	家族・家庭の理解(3)	ライフコースと仕事・子育て		
	9	家族・家庭の理解(4)	多様な家庭とその理解		
	10	家族・家庭の理解(5)	特別な配慮を要する家庭		
	11	子育て家庭に関する現状と課題(1)	子育てを取り巻く社会的状況① 現状把握		
	12	子育て家庭に関する現状と課題(2)	子育てを取り巻く社会的状況② 課題の整理		
	13	子育て家庭に関する現状と課題(3)	子育てを取り巻く社会的状況③ まとめ		
	14	子育て家庭に関する現状と課題(4)	子育てを取り巻く社会的状況④ 発表		
15	まとめ	まとめ・振り返り			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育内容演習Ⅲ		担当教員 (実務経験)	上山 七々子 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	子どもの心身の発達について理解し、運動遊びの工夫や注意点について学び、実践する。現場で生きる指導力を習得する。保育における「健康」の領域に対する理解を深め、健康で安定した生活をするための指導法と支援を学ぶ。				
到達目標	運動遊びに対して、興味関心を持ち、現場での指導を前提に内容を考え、実践することができる。子どもの心身の発達や環境を考慮し、遊びを展開することができる。子				
テキスト・参考図書等	0～5歳児の発達にあった楽しい！運動あそび 枅澤秋孝・枅澤友希 ナツメ社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・理解・実践授業の参加状況による総合評価 <		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
その他	60%				
履修上の留意事項	授業内で資料を配布します。保存するファイルを用意して下さい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	幼児体育の必要性・指導のあり方		
	2	運動あそびの基本	安全管理・全身運動		
	3	〃	集団遊び		
	4	〃	道具を使った運動遊び		
	5	〃	道具を使った運動遊び		
	6	〃	運動あそびの展開と指導案		
	7	運動あそびの実践	発達に合った運動プログラム (指導方法と作成方法)		
	8	〃	〃 (作成)		
	9	〃	〃 (練習)		
	10	〃	〃 (実践)		
	11	〃	〃 (振り返り)		
	12	音楽に合わせたダンス	リズムダンス・振付・構成		
	13	〃	振付・構成		
	14	〃	最終確認		
15	〃	鑑賞・評価			

履修主題・履修内容	16	まとめ(前半)	運動あそびの復習・ポイントの整理
	17	領域「健康」について	領域「健康」についての理解
	18	運動遊びを用いた子育て支援活動	内容の考察と組み立て
	19	”	”
	20	”	”
	21	”	制作及び実践練習
	22	”	”
	23	”	”
	24	”	”
	25	”	全体リハーサル①
	26	”	全体リハーサル②
	27	”	全体リハーサル③
	28	”	子育て支援活動の実践
	29	”	”
30	まとめ	活動に対する振り返り・まとめ	

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	障がい児保育		担当教員 (実務経験)	福井 一之 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	障害幼児の発達と特徴及び保育の実際を学び、子ども理解を深める。				
到達目標	子どもの特徴(障害など)と、保育実践の際の留意事項等が説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	実践に生かす障害児保育・特別支援教育 前田泰弘編著 立元真・中井靖・小笠原明子著 萌文書林				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	授業「課題(提出物)」と定期試験をもとに、取り組み姿勢で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	教科書をもとに基本的な知識を学び、資料を活用しながら「課題」について話し合いをする、障害幼児の発達と特徴及び保育の計画、内容、方法の基礎・基本をしっかりと学んでほしい				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	障害児保育を学ぶということ	「障害がある」ということについての理解		
	2	障害児保育の基本的な理解	発達の見方と「発達の評価、対応」		
	3	障害の理解と保育(1)	知的障害の理解と保育、聴覚障害、視覚障害の理解と保育		
	4	障害の理解と保育(2)	知的障害、肢体不自由、病弱の理解と保育		
	5	障害の理解と保育(3)	「発達が気になる子ども」の理解と保育		
	6	障害の理解と保育(4)	「発達障害」の理解		
	7	障害の理解と保育(5)	自閉症スペクトラム、学習障害の理解と保育		
	8	障害の理解と保育(6)	注意欠如、多動性障害の理解と保育		
	9	子ども理解に基づく保育計画	障害のある子どもとのかかわり方、計画の作成、記録		
	10	個別の指導計画(個別計画)	計画の立て方、記録、活用の仕方		
	11	保育の実際(1)	発達をうながす生活やあそびの環境、人のかかわり		
	12	保育の実際(2)	保育者のかわり、個別の配慮		
	13	職員間の協力関係	情報共有、合理的配慮の実際		
	14	家庭や関係機関との連携	障害の早期発見、発達相談、療育資源の活用		
15	まとめ	障害児の保育実践について(まとめ)			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	社会的養護Ⅱ	担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	8回	時間数	15時間
授業目的	社会的養護Ⅰでの学びを基礎とし、施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。				
到達目標	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、実践することができる。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について討議および実践することができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	グループワークの取組姿勢、提出物、試験等、総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	事例検討を通して学びます。毎回、事例や必要に応じて資料等を配布します。各自保管し、指示されたときには見ることができるよう授業の際には持参してください。グループワークの際には積極的に参加してください。難しく感じても考えること、自分の意見を持ち、表現することが大切です。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	社会的養護の内容	オリエンテーション 社会的養護における子どもの理解		
	2	社会的養護に関わる専門的技術	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践		
	3	社会的養護の実際①	日常生活支援に関する事例分析①		
	4	社会的養護の実際②	日常生活支援に関する事例分析②		
	5	社会的養護の実際③	治療的支援に関する事例分析		
	6	社会的養護の実際④	自立支援に関する事例分析		
	7	支援の計画と記録及び自己評価	アセスメントと個別支援計画の作成・記録及び自己評価		
	8	今後の課題と展望	多様な課題への対応 まとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	子育て支援	担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に学ぶ。				
到達目標	様々な場面における支援について学び、育児不安を抱える保護者等に相談援助の実践ができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	試験、グループワークの取り組み状況、提出物、積極的な発言・質問を含む参加状況等から総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	板書、プリント、グループワーク、ディスカッションなど、保護者理解と保護者支援について、自身の考えをもてるよう積極的に取り組んでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	保育とともに行う保護者を対象とした子育て支援	保育と関連して展開される子育て支援 関わりを通じた保護者との相互関係・信頼関係		
	2	家庭が抱えるニーズへの気づきと多面的な理解	家庭が抱えるニーズ、子育て家庭の地域交流		
	3	家庭の状況把握、子育て支援の計画	家庭の状況・状態の把握と分析		
	4	子育て支援の環境構成	関係構築のための環境		
	5	子育て支援の具体的手段	情報提供の方法		
	6	子育て支援の技術	保育士の保育相談支援技術		
	7	職員間の連携・協働の実践	保育所における体制構築		
	8	社会資源、自治体・関係機関や専門職との連携・協働の実践	社会資源と関係機関		
	9	保育所等における子育て支援	保育所と保護者との相互理解		
	10	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	病気の子どもと家族への支援		
	11	子ども虐待の予防と対応	保育所での虐待予防・早期発見		
	12	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援	支援の流れ(事例)		
	13	地域の子育て家庭に対する支援	保育所等を利用していない子育て家庭の現状		
	14	要保護児童等の家庭に対する支援とその実践	要保護児童と家庭への支援		
15	まとめ	まとめ			